



2009年 第12回

タイトル:「超高齢化到来」

超高齢化到来介護・福祉問題から見る50年後の日本は？

場 所:Mウイング(松本市中央公民館)3-1 教室

日 時:2009年12月18日(金) 19時より

講 師:梓川診療所 専務 畑山善純

開催日時	平成21年12月18日(月)	19時00分～21時30分
開催場所	松本市中央公民館 3-1	参加者 30名
内容	<p>今回は介護・福祉問題について勉強しました。</p> <p>==報告== 高齢化社会(こうれいかしゃかい)とは、総人口に占める老年人口(65歳以上)の比率の事です。</p> <p>1935年(昭和10)の高齢化率が4.7%と最低でしたが、1950～1975年は出生率低下によって、それ以降は、死亡率の改善により高齢化率が上昇しました。先進諸国の高齢化率を比較してみると、日本は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、2009年(平成21年)には22.7%となり、世界に類を見ない水準に到達しています。</p> <p>しかし、現状の福祉業界は、給与が低い上に重労働、転職率も高く、まだまだ業界としての魅力度に乏しいと言えます。このことが業界の成熟度を下げる要因と言えます。</p> <p>地方都市では、雇用の創出など福祉業界は非常に重要です。絶対的に来る高齢化社会をどのようにまちづくりに導いていくかを、講演頂きました。福祉先進国スウェーデンなどの事例を参考に日本型福祉サービスについても言及。福祉サービスをビジネスと捉えると地方都市では、様々なメリットや可能性を秘めていることが分かりました。特に安定収益を確保できる、地価が安い、雇用を創出できるなど、福祉・介護で新しい「まちづくり」が発信できることを知りました。</p>	
レジュメ	当日のPPTあり	
その他 当日の様子	【当日の様子】	



当日は梓川診療所 専務 畑山善純さんが講師を担当。介護施設を運営している側からの現場サイドのお話を頂きました。



高校生で来年から福祉業界に進みたいと女生徒が参加頂きました。今まで日本を支えた高齢者の方々を今度は私たち若い世代が支援していきたいという動機からだそうです。

12月の師走の忙しい時期にも関わらず会場内はいっぱいとなり大変嬉しかったです。